

しんぱん

しどうようもんしゅう

# 新版 指導要文集

だいにしよう

じつせん

## 第一章 実践

だんけつ

## 團結

なんじ らんしつ とも まじ まほ しょう な  
汝、蘭室の友に交わつて麻畝の性と成る。

(002) 立正安國論

だんけつ  
團結 43 ページー5行)

らんしつともにちれん

あなたも蘭室の友、つまり日蓮のもとへ来て帰伏することによ

よもぎ  
ま  
じやしん  
あや  
しょうしん

なる」とができたのです。

外道・悪人は如來の正法を破りがたし。仏弟子等、必ず  
仏法を破るべし。「師子身中の虫の師子を食む」等云々。  
大果報の人をば他の敵やぶりがたし、親しみより破るべ  
し。

(122 佐渡御書 さ ど ご し ょ)

1286 ページー7行

外道(仏教以外の教えをたもつ人)や悪人は、仏の説いた正  
しい法を破ることはできません。むしろ仏の弟子たちが内から

ぶっぽう やぶ

仏法を破るものなのです。それはちよど師子の体内にすむ害虫

ぶっぽう やぶ

がいちゅう

が、師子をくうといわれているようなものです。また大果報の人を、  
ほか かたき やぶ だいかほう ひと  
他の敵は破ることはできません。親しくしている人たちが破るの  
です。

二人一同の儀は、車の一つのわのゞとし、鳥の二つの羽  
のごとし。たとい妻子等の中のたがわせ給うとも、一人の  
御中、不和なるべからず。恐れ候えども、日蓮をたいと  
しとおもいあわせ給え。もし中不和にならせ給うならば、  
・の冥加いかんがあるべかるらめと思しめせ。あなかし  
こ、あなかしこ。各々みわきかたきもたせ給いたる人々な  
り。

(185 兵衛志殿御返事 (兄弟同心の事)

うち ろんい きた  
内より論出で來らば、  
鶴蚌の相扼ぐも漁夫のおそれ有るべ  
し。

(185 ひょうえのさかんどのごへんじ  
兵衛志殿御返事 (兄弟同心の事)

だんけつ  
團結 1503 ページー 11 行

ほうもん

いちもん

ほ  
い

見

聞

この法門の一門、いかなる本意なきことありとも、みづき  
かずいわざしてむつばせ給え。

言

睦

たま

(217) 陰徳陽報御書

だんけつ

團結  
1613  
ページー6行

そう  
にちれん でしだんなとう じた ひし こうる すいぎよ  
総じて、日蓮が弟子檀那等、自他・彼此の心なく、水魚  
おも な いたいどうしん いたいどうしん なんみょうほうれんげきよう とな  
の思いを成して、異体同心にして南無妙法蓮華経と唱え  
たてまつ しょうじいちだいじ けつみやく い  
奉るところを、生死一大事の血脉とは云うなり。しか  
いま にちれん ぐつう しょせん  
も、今、日蓮が弘通するところの所詮これなり。もししか  
こうせんるふ だいがん かな  
らば、広宣流布の大願も叶うべきものか。あまつさえ、  
にちれん でし なか いたいいしん もの あ  
日蓮が弟子の中に異体異心の者これ有らば、例せば、  
じょうしや しろ やぶ  
城者として城を破るがごとし。

(276 生死一大事血脉抄

だんけつ

1775

ページー14行)

そう にちれん でし しんじや じぶん たにん

総じて日蓮の弟子や信者たちが、自分とか他人、あれとかこれと

こころ みず さかな かんけい おも

いつたわけへだてする心なく、水と魚のような関係にある思い

いたいどうしん なんみようほうれんげきょう とな

で、異体同心に、南無妙法蓮華経と唱えていくことを、生死

いちだいじ けつみやく

一大事の血脉というのです。しかも今末法において、日蓮が弘め

きゅううきょく

ようとしているところの究極はこのことなのです。もしこのとおり

じっせん

実践するならば、広宣流布の大願も成就するであります。も

にちれん

でし

いたいいしん もの

し日蓮の弟子のなかに異体異心の者があれば、それはたとえば城の

もの しろ やぶ

おな

なかにいる者が城を破ると同じようなものです。